



市民の暮らしまでもって

32年 鈴木市議員 石田 秀三 です

クルマに 乗らなくても 元気に暮らせる町に



日本共産党

高齢化社会を迎える中で、クルマを手放したら何も出来ない、生活の足を何とかしてほしい、クルマに乗らなくても元気に暮らせる町にしてほしいという声が広がっています。

日本共産党は、地域巡回小型バスと、主要中心街を周回する中型乗合バスの組み合わせで、高齢者や交通弱者の生活交通網の確立をめざします。

また、多くの市民に愛され市の財政負担も少ない方法を探求し、①乗車運賃無料、②地域バスと中央循環バス、③市の直接の事業で提案しています。

鈴鹿市民のコミバスをよくする会(辻井良和会長、会員約150名)は、玉城町をモデルとした地域巡回バスの市内8地域での運行と、それらを結ぶ中央循環線を提案し、末松市長とも懇談を続けています。

コミバスをよくする会の生活交通・巡回バス費用試算(年間)

- 自主運行方式、1日9時間360日運行
 - 地域巡回バス 8サークル
ワゴン車16台 リース代 2,880万円
 - 中央循環バス マイクロバス4台
リース代 1,440万円
 - 運転手賃金 6,480万円
 - 燃料費 2,160万円
オペレーター職員 16人 = 3,840万円
 - コンビニクルシステム利用料 1,440万円
 - 電話代など 120万円
 - ＜合計＞1億8,360万円
- ※財源は、市民からの協賛金などでまかない、市の財政負担は1億2千万円程度と試算。



石田市議の活動・各期の主な成果

1期目	三宅町のゴルフ場建設について「1戸10万円」買収を暴露し追求、ストップさせる。自由が丘団地に公園建設を実現。
2期目	学童保育を「公設民営」で市の施策にさせる。中勢病院跡地への場外舟券売場計画を撤回させる。乱脈「食糧費」を追及。
3期目	またも場外舟券売場(三日市町)つづいて場外馬券売場計画を撤回させる。プラスチックゴミの分別収集を実現。
4期目	コミュニティバス(Cバス)を実現。四日市市との「大合併」に反対の論陣はり、議会超党派の反対多数で否決、鈴鹿市を守る。
5期目	入札改革で新庁舎建設費を10億円以上引き下げる。国保税2年連続値下げさせる。水道水源保護条例制定。
6期目	上水道への長良川導水ストップ、過大な計画を是正させる。中学校の完全給食へ実現のメドつける。生活保護不正支給事件を追及。
7期目	土地開発公社の塩漬け土地の処理すすめる。市長など特別職の特権的退職金を引き下げ。住宅リフォーム助成事業を実施。
8期目	中学校給食センター建設、15年5月より給食スタート。19年2月国道306伊船バイパスが開通、旧道地域が安全に。

石田秀三市議のあゆみ

「国民が主人公」つらぬく日本共産党に惹かれ

市西部の農村地域で生まれ育ち、高校を出るまではのんびりと過ごしていました。大学に入ったのが、ちょうど「安保・沖縄」が問題となっていた時で、社会に目を向けて考え行動しなければ、と学生自治会の活動に参加。その中で先輩や友人に誘われ、沖縄県が日本に復帰した1972年、日本共産党の一員となりました。侵略戦争に反対、国民が主人公だと主張を曲げずにたたかいた姿に惹かれ、自分もバックホーンを持った人間になりたいと願ったのです。



1987年6月議会で初質問

卒業後は地域住民の役に立ちたいと、鈴鹿市役所で働いてきましたが、12年目に共産党から市議選挙への出馬を要請され、住民のために働くのは同じと一念発起、1987年4月に初当選。以来8期32年、市民の皆さんの声を市政に届ける活動を続けてきました。

87年6月議会から1度も欠かさず一般質問に立ち、この3月4日の本会議で128回となり、市政のあらゆる問題を議論し、多くの成果も上げることができました。(右の表)

また議会外でも、市民のいろいろな生活相談に応じています。生活保護や借金・税金、医療・介護、地域の環境問題など、32年の経験と共産党の全国ネットワークも使いつながり、その解決に力を尽くしています。

地域住民の役に立つために働きたい



日本共産党鈴鹿市委員会の政策と活動をお知らせします。

辺野古の基地建設を強行、庶民に増税、大企業・金持ちには減税・もうガマンならぬアベの悪政!

ウソ・隠ぺい・捏造・行政の私物化、そして軍備拡大・憲法9条の改悪。戦後最悪のアベ政治にストップを!

石田議員の原案でもある「沖縄」に日本に復帰して47年たっても、米軍のさばっています。デニー知事が圧勝し、県民投票で「辺野古の海まもれ」が圧倒的多数という結果が出て、埋め立て工事を止めようとしていないアベ政権。

国民には、統計数字まで改ざんして「好景気が続き、賃金も上がっている」とウソをつき、消費税10%への引き上げを強行しようとしています。

日本の政治を、もうこれ以上アベ政権に任せるとは出来ません。今年の地方選挙・参議院選挙で、自民・公明・維新をへらし、日本共産党と野党共闘を前進させて、まともな政治を取り戻しましょうと、石田議員は今日も街頭から市民に呼びかけています。

子育て支援さらに前進を

日本共産党は提案します

子ども医療費、中学まで 全員「窓口無料」にします

今期、鈴鹿市の子ども医療費助成は小学生・中学生まで無料になり、喜ばれています。また「窓口無料」も、この4月から2才まで↓6才(就学前)までに拡大される予定です。

「鈴鹿市の子どもはみんな大事な宝」です。所得制限をなくし、窓口無料を小学生・中学生にも対象を広げ、病気の子どもを抱えてお金の心配をしないで済むようにします。



「みんな窓口無料にすると予算が増えて大変だ」という理屈は、間違いです。子ども悪くないのに、夕夕だからといって医者に行く子どもはいません。しかし窓口でいったん払うお金が大変だと、受診をカマンしている家庭は多くあります。「窓口無料」はこのよな家庭のために必要なのです。一日も早く、窓口無料を実現させましょう。

学校給食費の 無料化をすすめます

2015年5月から、父母の皆さんが望んでいた中学校での完全給食が始まりました。

その一方で、小中学校に子どもが何人もいる家庭では、給食費(小学校月額4200円、中学校4750円)などの保護者負担も大きくなっています。所得の少ない家庭には「就学援助」制度での支援があります(生活保護基準の1.5倍まで)が、基準を超えた



家庭でも負担は大変です。憲法26条では「義務教育はこれを無償とする。」と明記されています。いま各地の自治体でこの理念に基づき、給食費への補助が始まっています。鈴鹿市でもぜひ実現させましょう。当面は多子世帯の負担を、保育料のように2人目・3人目から段階的に引き下げて、将来は全員無料になるように充実していきましょう。

子どもからも取る国保の 「均等割」保険料なくします

三重県14市中で3年連続・一番高い

鈴鹿市の国民健康保険料。高くしてても払えない、と悲鳴が上がっています。なかでも、生まれたばかりの赤ちゃんにもかかる「均等割」(1人年額4万800円)は、国保にしかない、他の健保制度にもない、また先進国のどこにもない、古代にあった「人頭税」と同じです。子どもが3人いる世帯で12万円も国保料がはね上がる仕組みはおかしいと、全国知事会も国に見直しを求め

ています。

子ども医療費への市助成額は年間1人当り3万円弱、その鈴鹿市が子どもから保険料1人4万800円を取り立てるとは矛盾の最たるもの、ただちに廃止すべきです。

国保加入者のうち18才までの子どもは約4千人、1億円ほどを基金や一般会計から繰り入れれば、子どもの「均等割」はなくせます。



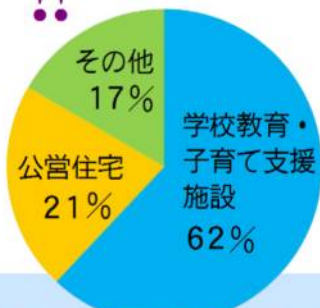
このままでは危険！古い学校・ 保育所の改修・建て替えを急げ！！

いま鈴鹿市では、老朽化がすすむ公共施設(築35年超)の6割が、学校教育施設と子育て支援施設です。ところが、その改修・新築の具体的な計画はありません。2019年度予算で、西条保育所(新築移転)、石薬師小体育館(建設着工)、大木中(改築の基本設計)の

3件が計上されたのみで、来年度以後は見通しも示されていません。このままでは、ポロポロの校舎・園舎だらけになってしまいます。共産党市議団は、早期かつ集中的に改修・新築を行なう計画を立て、最優先で進めることを提案しています。

築40年超の
保育所5園
小学校22校
中学校6校

(2018年現在)



築年数35年以上施設の類型別内訳



玉垣保育所(築50年)



庄野小(築45年)



白子中(築58年)